

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。



モールの環境設備

各モールから排出されるCO₂を大幅に削減するためにはハード面の改善が必要です。新規出店やリニューアルされるモールには最新の環境設備を導入するほか、継続的にエネルギー関連設備の検証と改善を行い、得られた成果を全国のモールで水平展開しています。また重油炊きの熱源や自家発電など、エネルギー消費やCO₂排出量の大きい設備は段階的に廃止しています。

太陽光発電

当社は早くから太陽光発電システムの導入を積極的に進めてきました。現在は中国の3モールも含めて全27モールで設置を完了し、館内で使用する電力の一部をまかっています。さらに、2012年4月にオープンしたイオンモール福津では、災害などによる停電時に太陽光パネルで発電した電力を活用できるシステムを新たに導入しています。

氷蓄熱システム

これは電力負荷の少ない夜間の電気を



太陽光発電



氷蓄熱システム



LED照明



LED電飾サイン

利用して蓄熱槽に水を蓄え、その熱エネルギーを営業時間の冷房に活用するもので、昼間の消費電力を抑えることで節電にも貢献できます。

空調冷水カスケードシステム

当社が開発して5モールに導入済みの「空調冷水カスケードシステム」は、複数の空調機をカスケード（連なった）配置とし、夏季の冷水搬送動力の低減ときめ細かな空調負荷対応を実現しました。冬季は館内の人体発熱や照明発熱を冷水で熱吸収させ、外気を温めて送風利用。当社既存店の空調システムと比較して約10%の電力削減

を可能にし、CO₂排出量削減に貢献します。

LED照明

各モールの館内照明については、従来の蛍光灯や白熱電球から、より省電力かつ長寿命なLEDへの切り替えを進めており、専門店にも導入を呼びかけています。2012年にオープンしたイオンモール福津では共用部照明の90%でLEDを採用しています。なお、現在LED照明の導入は全モールのうち48%ですが、2012年度内に80%、2015年には全モールで切り替えを進める予定です。また屋外の電飾サインにもLED光源ユニットを採用しています。

イオンモール環境方針

イオンモールは、資源エネルギーを有効に活用し、サービスの質を高めながらも、環境への影響を最小にするモールづくりを通じて、持続可能な社会の実現をめざします。そのため、環境方針を次のとおり定め、あわせて、多くのお客さまとのコミュニケーションと地域貢献の履行に努めてまいります。

1. イオンモールは、地球温暖化の防止のため、CO₂排出を削減いたします。
2. イオンモールは、地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざすため、ゼロエミッションモールを実現します。
3. イオンモールは、お客さまをはじめとするパートナーさまの生活環境の向上と、地域社会の発展と環境保全に貢献します。
4. イオンモールは、環境法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を順守します。
5. イオンモールは、環境マネジメントシステムを構築し、事業部門ごとに目的・目標を制定し汚染を予防する体制を築き、継続的な改善を推進します。
6. イオンモールは、従業員全員で環境意識を高め、お客さま・パートナーさまへの啓蒙活動を続けます。
7. この方針を当社従業員及びともに働く従業員に周知するとともに、当社の環境情報を公開いたします。

CSR分科会が発足

従来の「CO₂削減委員会」は、今年度よりSR会議の下部組織である「CSR分科会」へ移行しました。この分科会は、当社のCSR活動のPR強化、モールでの有効な取り組みを水平展開するための情報収集の場として設けられ、各部署から選出されたスタッフで構成されます。今後は各種の印刷物、Webサイトなどを有効活用し、ステークホルダーとのコミュニケーションをさらに強化していきます。

社員の意識向上のために

イオングループでは2008年度より社員に「環境社会検定試験(eco検定)」の受験を奨励しています。当社においても

- ①社員が環境問題に高い意識を持ち、モール運営の実務に生かすこと
- ②具体的にCO₂削減方法を理解し、行動を伴うことで目標数値達成につなげること
- ③環境に取り組む先駆的企業としてのポジションを維持することを目的として全社員取得を目標に取り組み、2008年から2011年までに受験した476名のうち401名が合格しています。

緑に囲まれたモールへの環境づくり

新しいモールがオープンする際には、お客さまとともに敷地内に植樹をする「イオン ふるさとの森づくり」を実施しています。新しくできるモールが地域に根ざし、コミュニティの場となること、さらに緑を育む心が地域の人々に広がることを願い、グループ全体でこの活動を行っています。当社における国内全モールの累計植樹本数は約181万1千本に達しています(2012年2月20日現在)。



屋上緑化/壁面緑化

モールの屋上や壁面のグリーン化は景観を向上するだけでなく、夏季の館内における温度上昇を抑制し、冷房で使用するエネルギーの削減につながります。また周辺環境への熱の照り返しを防止する効果もあります。2011年にリニューアルオープンしたイオンモール倉敷では、お客さまからご提供いただいた

約300本のデニム製品を再利用した壁面緑化用土壌パネルを設置しました。



イオンモール倉敷

環境コミュニケーション

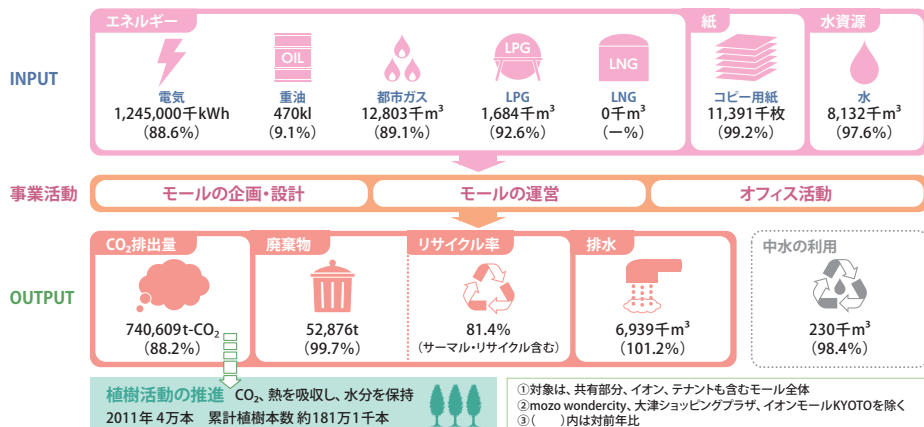
環境への取り組みは当社の従業員だけで進められるものではなく、専門店やお客さまのご理解・ご協力が必要です。専門店のスタッフには小冊子の配布やバックヤードの掲示物などでご協力をお願いしています。また館内ではエコステーションやエコベンチを通してお客さまへの環境コミュニケーションを行うとともに、エコバッグの持参リサイクルへのご協力を呼びかけています。



従業員向け小冊子

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。

2011年度インプット / アウトプット (国内54モール)



震災後の節電対応

2011年の夏季は東日本大震災による影響で電力不足が懸念されたことから、下記の取り組みを中心に使用電力の削減に努めました。

- 館内照明の一部消灯
- 館内温度を約28℃を目安に設定
- 一部エスカレーター・エレベーターの運転休止

さらに専門店にも節電への協力を要請するとともに、店頭のパスターや館内放送を通じて、お客さまにも節電へのご理解とご協力をお願いしました。その結果、東京電力管内のモールでは政府が要請する需要抑制率15%を上回る25%以上の節電を達成しました。

社会やインフラの変化とともに

かつては自家用車でのご来店を想定した郊外型モールの開発を主流にしていましたが、現在では国内全モールの3分の1以上が鉄道や地下鉄の駅に近接し

ているほか、全モールで環境への負荷が少ない公共交通機関を利用できる環境を整えています。

公共交通機関の利用促進

イオンレイクタウン、イオンモール鶴見緑地では、鉄道会社や交通局と連携して公共交通機関によるご来店を促進しています。お客さまが乗車カードを利用して公共交通機関でのご来店いただき、モール内の専用端末にカードをタッチすることで、景品と交換できるスコアや交通料金が割引になるポイントをためることができます。

EV (電気自動車) 充電ステーション



2012年4月現在、当社の11モールを含めてイオングループでは全国25ヶ所の商業施設に電気自動車の充電ステーションを設置しています。これからも地球環境

の保全、持続可能な社会の実現をめざして各地に設置を進めてまいります。

パーク&ライド

イオンモール名取、イオンモール東浦、イオンモール熊本では自治体と協力して「パーク&ライド」を実施しています。これは地域の皆さまが通勤や通学をする際に、モールの駐車場に自家用車を駐車し、公共交通機関を利用して最寄駅や中心街へ移動していただくもので、交通渋滞の緩和や大気汚染の軽減に貢献することを目的としています。2012年4月には、イオンモール甲府昭和でも山梨県との連携によりモールの駐車場からシャトルバスで甲府駅方面へ移動する「パーク&バスライド」の実証実験を開始しました。



パーク&ライド事業に関する協定締結式 (山梨県)

「見える化」による廃棄物削減

廃棄物の削減では「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目に分別したうえで品目ごとに計量するシステムの導入を進めており、2011年度までに全43モールで稼働しています。専門店は各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめます。今後は専門店の業種別に廃棄物の品目を分析したり、排出量のデータを専門店にフィードバックすることで、さらなる廃棄物削減や経営効率の向上が期待できます。分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。2011年度の全社リサイクル率は81.4%でした。同時に、廃棄物処理法対策として、廃棄物業者と契約書や許可証の期限切れを未然に防止できるよう、SRシステムで自動的に告知するよう改善しています。



生ごみ収納庫には空調を備え、悪臭や害虫の発生を抑えています。



廃棄物は品目別に分別して計量。どの専門店からどれだけの廃棄物を出しているかをデータで把握しています。



モール館内に設置したごみ箱や従業員用のごみ箱でも分別を実施。お客さまのご協力もいただいてリサイクルを推進しています。

2011年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

品目	廃棄物排出総量	リサイクル率
1 生ごみ	10,382t	82.9%
2 段ボール	15,862t	100.0%
3 雑芥	14,948t	53.5%
4 廃プラスチック	2,460t	98.5%
5 ビン	301t	97.1%
6 缶	563t	100.0%
7 発泡スチロール	109t	100.0%
8 廃油	1,178t	100.0%
9 紙類	1,988t	100.0%
10 粗大ごみ	179t	59.1%
11 その他不燃ごみ	1,259t	75.5%
12 廃蛍光灯	65t	87.9%
13 廃電池	10t	78.9%
14 割り箸	96t	97.5%
15 廃アルカリ、剥離剤	45t	61.5%
16 汚泥	3,008t	77.1%
17 廃エンジンオイル	-	-
18 店頭回収:アルミ缶	91t	100.0%
19 店頭回収:食品トレイ	34t	100.0%
20 店頭回収:牛乳パック	93t	100.0%
21 店頭回収:ペットボトル	247t	100.0%
全社リサイクル率 (サーマル・リサイクル含む)		81.4%



生物多様性保全の取り組み

ショッピングモールを開発する当社としては、モールのオープニングが周辺の環境に与える影響をできる限り小さくするのが責務です。2011年3月にオープンしたイオンモール大牟田では、計画地の一部に約25種類の希少生物がいることが判明したため、約5,800㎡におよぶスペースをビオトープとして保全。オープン後は自然とふれあう場としてお客さまに親しんでいただいています。



敷地内のビオトープ (イオンモール大牟田)



アオモンイトトンボ

イオンモール草津 (2008年11月オープン) では建設予定地に環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定される「ミズタカモジ」などが確認されたため、あらかじめ保管した表土を敷地に再現した水田に振り付けて保全を行いました。水田ではトンボやバッタなどの昆虫も多く確認されています。



計画地にあった水田を再現したビオトープ